

達人リコメンドの四国(続々四万十川編)

1、リョーマの休日

「高知の城下に来てみや、「じんば」も「ばんば」もよう踊る～よう踊る。
鳴子両手によよう踊る～よう踊る。土佐の高知の播磨屋橋で坊さんかんざし買うを見～た。
よさこい！よさこい！」・・・「ホイホイ！」

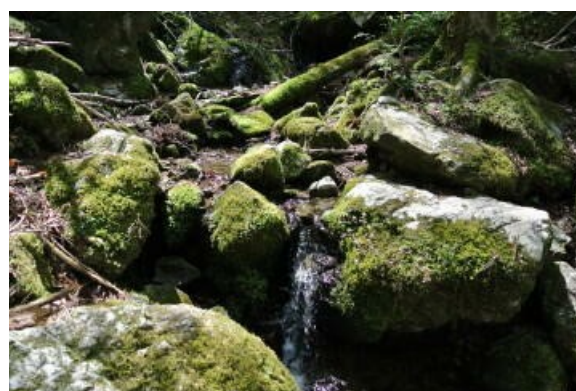


2013年、ゴールデンウィークの旅は、高知。高速道路も四万十川観光の玄関口の窪川まで開通し、テレビでは、生田斗真と真木よう子の「遅咲きのヒマワリ」で、地域おこし隊を有名にし、映画も「県庁おもてなし課」が公開直前。坂本龍馬人気も充実し、観光スローガンが「リョーマの休日」で、ポスターにはスクーターに乗った尾崎知事まで登場。今年の観光は高知に行くっきゃない。いつ行くの？今でしょ！

てなわけで、高松拠点に、四万十川流域と四国カルストと桂浜を旅して来ました。

2、源流(高知県津野町)

昨年は、増水していたので断念。今年こそはと意気込んでトレッキングシューズを購入し、布施ヶ坂より源流の記念碑へ。最近の好天が影響して、水量も少なくスニーカーでも登れる程度の状況で、無事目標とした白い木の杭の前で写真撮影。最後の清流の起点、下田の渡しから196kmの地点に到達しました。参考まで、ここは高知県津野町不入山(いらずやま)という場所。





3、四国カルスト(愛媛県久万高原町・高知県津野町・梶原町)

今回のお宿は国民宿舎・天狗荘。四国カルスト観光の拠点として一度は宿泊したいと思っていた場所で、建物自体が愛媛県と高知県の県境をまたぐという変わり種。高原の夕焼け、満天の星空が広がり、カルスト地形を照らし出す日の出、周辺の山々を包み込む雲海など、自然をゆっくり体感するには最高の空間です。



津野町発行の天空の爽回廊というガイドブックで、「愛媛県と高知県の県境に位置し、東西に約25kmのゆるやかな高原の尾根が続く四国カルスト。緑の草原の中に、まるで白いヒツジの群れのように石灰岩が露出したカレンフェルトや、浸食作用でできた窪地のドリーネといった特有の景観を見ることができます。」と紹介されています。





天狗高原～五段高原～姫鶴平～大野ヶ原と広大なカルスト地形を眺めながら爽快にドライブして、龍馬脱藩の第一歩の萑ヶ峠から県境に沿って敷設された林道を下りれば国道197号、四万十川の支流の広見川に到達します。



4、沈下橋(高知県四万十町)

四万十川と言えば沈下橋。欄干が無く増水すれば沈んでしまうから、沈下橋・潜水橋と呼ばれます。今回は、このGWにバド仲間の戦場カメラマンのヒロさんが、旅のハイライトとして乗車した「サイクルトレインにゃんよ号」の終点の江川崎駅から上流に向けて、清流を遡上します。



平家の落人が移り住んだ地、半家。平家の「平」という文字の上の「一」を下に下げて、「半」・・半家と書いて、はんげ～はんげ～はげ・・とした由緒ある場所にあるのは、中半家沈下橋。



道の駅「四万とおわ」に立ち寄ろうとすれば、イベントと重なったせいか、入場する車で大渋滞。川の天空を渡るこいのぼりを見学して、この場をスルー。第一・第二三島沈下橋、茅吹手沈下橋から里川沈下橋。特に里川は国道から離れた場所に位置し、中央径間を真新しい工場製作のコンクリート床版で架換していて、部分的なギャップが素敵です。



最も有名な今成橋(佐田沈下橋)を含めて、現在では貴重な観光資源としての役割を担っている沈下橋ですが、形はどうあれ、対岸の文化をつなぐ重要な交通手段で大切な暮らしの必需品として、なくてはならない宝物です。個人的には、橋の上に座って静かに川の流れを眺めながら物思いにふける…ってのが最高の贅沢だと思っています。



今回紹介したいのは、もっと上流の二つの沈下橋です。流域内で現存する最古のものは、一斗俵沈下橋。昭和10年架橋で、現在も地域の子も達の遊び場で、訪問した時も子どもの日を祝ってか、願いを書いた吹き流しを浮かべていました。そのすぐ下流にあるのが、一番新しい清水大橋。といっても昭和40年架橋ですが、この地に当初架設した橋が流され、すぐに近代化された橋が架けられ、実際にはあまり役に立ってないようで、少し悲しい橋歴ですが、花菖蒲に見守られて、静かにた

たずんでいる姿が素敵です。



そんな、四万十川の素朴な風景を眺めて、遡上、松葉川温泉で羽根を伸ばして川を巡る旅を終えます。何度来ても新しい発見がある四万十川・・・またまた勝手に、達人リコメンドの清流と認定したいと思います。清流よ永遠に！！



平成25年5月8日記(旅は5月2日～6日)

5、高知のエトセトラ

・ホエールウォッチング(土佐市)

今回の注目ポイントとして、太平洋のクジラを観察したくて、宇佐漁港からのUSAツアーを選択。高知では、室戸・桂浜・宇佐・大方・足摺などから船が出港していて、ニタリクジラやイルカの群れなどを見学できるのですが、残念ながら5月5日はクジラ不在で、往復6時間かけて、小さなイルカのハナゴンドウを数匹見つけただけで戻ってきました。



・桂浜(高知市)

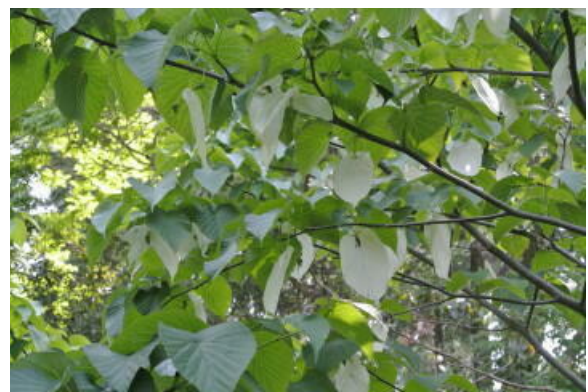
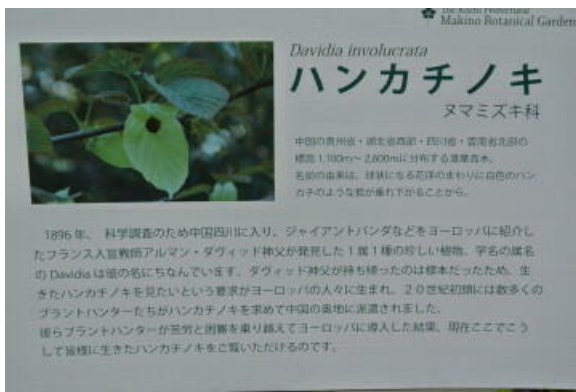
過去を振り返れば、高知出張というのは相当の回数を数えますが、ゆっくりと桂浜を見学した覚えがありませんので、今回は、国民宿舎の桂浜荘から坂本龍馬の銅像、記念館に龍王岬、水族館とフルコースで桂浜を満喫しました。連休特別企画は、龍馬に大接近で、銅像と同じ目線で太平洋を眺めます。水族館のイルカは芸達人だったりします。





・牧野植物園(高知市)

坊さんかんざしの五台山。四国31番札所の竹林寺は参拝しましたが、牧野植物園のことは知りませんでした。桂浜の観光案内所のボランティアガイドさんイチオシの施設が、高知が生んだ「日本植物分類学の父」牧野富太郎博士の業績を讃えて開園した植物園で、季節の花、地元の花、皿鉢料理に見立てた花などが展示されています。



以上、旅は平成25年5月6日

・龍河洞(香美市)

高知と言えば、龍馬、よさこい、桂浜、日曜市にカツオのたたき。お接待するなら、四国を代表する自然遺産の一つとして龍河洞をご案内しましょう。高度差のある幻想的な鍾乳洞。古代人の壺が岩と同化し、流れるような鍾乳石がお出迎え。ヘルメットとヘッドランプで入る冒険コースも設定され、龍馬が洞内高くから「わしはここぜよ！」と、お客さまを見守ります。



・アンパンマンミュージアム(香美市)

「僕らはみんな生きている、生きているから歌うんだ。

手のひらを太陽に透かしてみれば、真っ赤に流れる僕の血潮。」

なんて歌いながら、アンパンマンミュージアムを訪問。ミュージアムだけでなく案内板から車止め、近所の神社に至るまで「やなせワールド」に囲まれています。



場内での撮影も自由(但し個人で楽しむためだけです)だし、大小のアンパンマンの銅像、モニュメント、バルーン、フラフ、絵画、原画、着ぐるみ、などなど。入場するだけで幸せな気持ちになれますぞ！

以上、旅は平成24年10月27日

・安芸の野良時計(安芸市)

時計台と言えばガッカリ名所？いえいえ、安芸の野良時計は歴史が違います。明治の昔から時を刻む事、幾星霜(現在は、シーズンとイベント時のみ動いているようですが)・・・人々に知らせた時間は数知れず。ノスタルジックに生き残る姿に脱帽です。



駐車場に車を停めて、周辺をゆっくり探索すれば、土塀、武家屋敷、城跡、歌碑なども発見できます。現在の野良時計のように(?)時を止めて、ゆっくり見学したい珠玉の旧跡。

・室戸岬ジオパーク(室戸市)

室戸と言えば、遠いし地図みたいに尖がってないし、黒い岩が転がっているだけ..なんてイメージでしたが、ジオパークの認定を受けたからか、観光案内も充実、モデルコースが提示され、遊歩道も解説付きで、地球の誕生と成長過程がわかる仕組みになって、ビシャゴ巖のいわれなども興味津々、太平洋を望む中岡慎太郎先生の像も笑顔に見えてきます。ジオパーク・インフォメーションセンターか観光協会で地図を貰ってゆっくり歩いて探検したいスポットになりました。



以上、旅は平成25年3月17日

平成25年5月9日記

Top
トップ
へ

Back
戻る



[達人リコメンドの四国～失われたアークを探して](#)